そ の 139

飯田高校の名簿で確 認したところ、確か 健二という人物で、 師時代の教え子が、 ことを知った。金子 校)に赴任している **飯田中学(現飯田高** 国大学 (現東大) 講 に明治38年10月から 夏目漱石の東京帝 思った。しかし、残 ない一冊であろうと れていて、コアな漱 ついての記述はなか 念ながら飯田中学に 石ファンにはたまら などが克明に記録さ けた漱石の講義内容 た。金子が帝大で受

館に、金子健二著 がわかった。 40年5月まで、英語 本があることがわか たところ、上郷図書 ットワークで検索し を担当していること 『人間漱石』という そこで、図書館ネ 借りて読んでみ について調べていく 年刊)で、八年後に た。飯田市立中央図 版(一九五六年刊) は初版本(一九四八 書館の国会図書館デ があることを知っ 同じ書名の増補改定 と、上郷図書館の物 ところが、この本

容であったが、最後 されていた。そし では初版本と同じ内 改訂版は二七〇~ま て、その増えた分に に三十二近い増補が ので確認してみた。 で閲覧できるという ジタルコレクション る。 がいくつも出てく ある。二
『一ほどの短 編だが興味深いこと いう最終末の一編で は、「私への忠告」と いて書かれているの まず、就職先が決 飯田中学赴任につ 将来大きく成長する きの旅費でも作って よ。(中略) 君は私の ことを考えるんだ 精読し、其間外国ゆ を断念して、それを 東京に出てくること んと持って行って、 釈入りの英文学をう 言葉通りやってみる

飯田にきた漱石の教え子 ~金子健二『人間漱石』~ 竹 村 雄 次

んだね」

を決意した。金子の

生を決めた一言と

は飯田中学への赴任

この言葉で、金子

に漱石が強く関わっ に来る決心をするの ての記述があった。 思うので、 ていることがわかっ しかも、金子が飯田 飯田中学赴任につい た。飯田にとっても **貴重な記述であると** 紹介をし を捨てるんだよ、学 まらず、大学院に進 者になるのだら一二 漱石が言った。 抱いた金子に、師の 年ひどい山奥の中学 執ろうという野心を 学して、文壇に筆を 「そんな馬鹿げた夢 **仪教員になって、** ている。 りの「ひどい山奥」 車、馬車で諏訪止ま 駅出発、富士見駅下 であったかが書かれ 田が、漱石の言葉通 り一泊翌朝、 いうことになる。 「当時飯田は飯田橋 次に、赴任した飯



健二『人間漱石』口絵 (上郷図書館蔵初版本)前列中央著者金子健 二段目中央夏目漱石 金子健 写真(より) ニ ニ

や乗鞍岳を左右に眺 れを左に見、赤石山 から二十里行程を馬 めながら、富士見駅 通過し、天龍川の流 馬車で飯田行、大き 馬車で赤穂までゆき な峠を二つも三つも 一泊、次は赤穂から る。 だ。しかし、こう書 落ち」だと感じる。 かれてしまうと、確 日露戦争直後の、飯 かに「おそろしい都 識されているよう 田線のない時代であ ゃんが東京から松山 へ赴任する描写が意 のはすごい。 高等学校校長、 学から帰国し、 費用を貯めたと

る漱石の『坊ちゃ ある。何んとおそろ 車のラッパに景気づ けられて、進むので ん』で、主人公坊ち しい都落ちだと思っ この文は、師であ それからアメリカに 中に楽しく送った。 乃至三年後の希望の ケ年間、漱石先生の 所謂沈潛生活を二年 「飯田で、足掛け二 そして、金子は、 舎の英語教員として

相乗り

一生涯を送ったであ

いうことだろ あ、よかっ という。希望の であれば 中で過ごした飯 田時代というの 出立した」 たと 5、ま いる。 と、恩師漱石への感 謝の言葉が綴られて 事はできない」 指針を一生涯忘れる に与えられた大きな ろう。私は先生の私

子大学の初代学長に歴任。戦後は昭和女 様な経歴もあり 就任している。 高等学校校長などを 間で、アメリカ留学 二年間のアメリカ留 言葉がなかったなら は、恐らく平凡な田 私は漱石先生 金子は、その後、 う。しかも二年 姫路 方お その 静岡 いう 那にあってほしい一 の本として飯田下伊 とはできるが、実物 石』。中央図書館の国 この改訂版『人間漱 中学に赴任した青年 レクションで見るこ 会図書館デジタルコ 大事な一編である。 としての漱石の姿が 教師の思いと、教師 が、開校直後の飯田 伝わってくる。飯田 下伊那にとっても、 短い一編である